

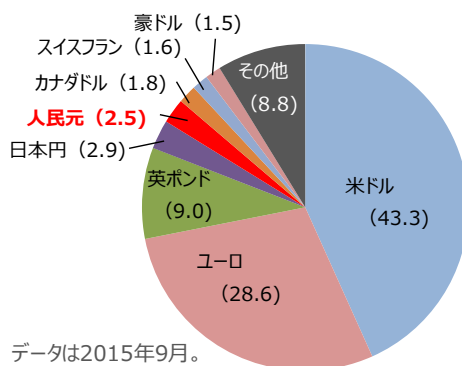
今日のトピック

人民元、SDR構成通貨採用へ

ポイント1 「国際通貨」の仲間入り 「自由度基準」を充足

- 国際通貨基金（IMF）のラガルド専務理事は13日、人民元のSDR（特別引出権）の5番目の構成通貨への採用について、30日の理事会に諮ることを明らかにしました。
- SDRの採用には、2つの基準を満たす必要があります。今年8月の見直しでは、人民元は「貿易量基準」を満たすとされましたが、もう一つの取引の「自由度基準」は判断が先送りされました。今回IMFの実務担当者の提案では、「広く使われ、広く取引される」と「自由度基準」を満たすとされています。

主要通貨の決済シェア

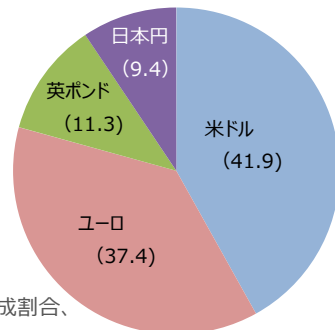


(注) データは2015年9月。
() 内はSWIFT（国際銀行間通信協会）におけるシェア、単位は%。
四捨五入の関係で合計が100にならない場合があります。
(出所) SWIFTのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 通貨需要が増加 為替リスク軽減メリットも

- SDRに採用されるメリットは大きく2つあります。一つは、準備通貨として人民元への通貨需要の増加が期待されることです。IMF加盟国は外貨準備の一部を人民元に振り向けることが予想されます。
- もう一つは、人民元建ての決済や金融商品の拡大につながり、中国政府や企業は、外貨建ての取引を抑制して為替リスクの軽減が可能となることです。

SDR構成通貨の割合（現行）



(注) () 内は構成割合、単位は%。
(出所) IMFのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 人民元の国際化や自由化の進展による、経済活性化を期待

- 30日のIMF理事会では、英国などの欧州勢に加え、米国も支持すると見られ、人民元採用が正式決定される可能性が高まっています。正式決定されると、来年10月に構成割合の見直しが実施され、SDR構成通貨の新比率で運用がスタートします。
- 人民元建て資本取引には規制があります。しかし、IMFは「自由度基準」と資本取引規制は別との認

識です。中国政府は、次期5カ年計画で人民元取引の国際化や自由化を引き続き重点目標とし、2020年までに資本取引の自由化を進めると見込まれます。人民元のSDRへの採用で、中国が進める新シルクロード「一帯一路」やアジアインフラ投資銀行（AIIB）推進の追い風になることも見込まれ、経済が活性化することが期待されます。

ここもチェック! 2015年11月11日 最近の指標から見る中国経済（2015年11月） 2015年 9月15日 中国人民元の「SDR」採用（中国）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。